

## 音楽運動療法の在宅普及方策に関する調査研究

### 研究の目的

音楽運動療法の、身体機能の保持・改善、認知症ケア、介護予防等に有効であることは実証されている。しかし、現状では施設系サービスの一環で行われることがほとんどで、在宅サービスへの普及は進んでいない。

音楽運動療法の在宅普及を図るには、一定のスキルを備えたスタッフが必要となるが、人材の確保、資金面の問題等をクリアしなければならぬ。その一方策として、ホームヘルパーの活用が考えられる。

具体的には、①ラジオ体操のような規格化した音楽運動療法プログラムを開発し、ホームヘルパーに担って貰う、②ホームヘルパー向けに情報を整備し、利用者と音楽運動療法実施者と結び付けて貰う等が考えられる。

本調査研究では、このような視点から音楽運動療法の現状を調査し、在宅普及のための具体的方策を研究する。

### 研究方法

専門家・研究者により委員会を設け、調査・研究を進める。

第一年次は、わが国で行われている音楽運動療法について、文献調査及びアンケート調査を実施するとともに、在宅で行うことができる音楽運動療法プログラムの内容及び実施方法を提案する。

第二年次は、いくつかのフィールドを選んで、一年次の提案に沿った音楽運動療法を試み、具体的プログラムを作成する。

### 委員会メンバー

川内 基裕	(一社) 日本市民スポーツ連盟会長 小金井リハビリテーション病院副院長
黒澤 加代子	日本ホームヘルパー協会東京都支部 副会長 清水坂あじさい荘H. S. サービス提供責任者
本田 清隆	(一財) 医療経済研究機構・社会保険福祉協会常務理事
丸山 ひろ子	日本音楽療法学会認定音楽療法士 日本音楽心理学音楽療法懇話会幹事
森田 茂生	年友企画(株) 顧問
依田 明子	(社福) 一廣会金井原苑苑長 元 ADL 対応型高齢者体操研究会幹事
宇野 裕 (事務局)	介護経営学会理事、(株) ひつじ企画代表取締役

## 検討経過

- |         |   |                                     |
|---------|---|-------------------------------------|
| 4月18日   | 委員による準備会合   | 調査研究の進め方について意見交換                    |
| 6月18日   | 第1回調査研究会  | 検討スケジュールの確認<br>音楽療法のとらえ方の見解統一       |
| 7月4日～7日 | 世界音楽療法大会<br>(各委員が個別に参加)                           | 音楽療法の現在について情報収集<br>音楽療法の効果に関する研究の調査 |
| 7月27日   | 実地調査  | 高齢者向け音楽レクリエーション<br>(国立音楽院方式による)     |
| 9月2日    | 第2回調査研究会  | アンケート調査票の検討                         |
| 9月～10月  | アンケート調査について関係団体との調整<br>日本音楽療法学会、日本病院会、全国老人福祉施設協議会 |                                     |
| 11月10日  | アンケート調査（事業者向け）発送予定。<br>1都3県の病院、特養、デイサービスセンターを対象   |                                     |